

～ 海外情報 ～

2012年2月9日 全15頁

## ASEAN NOW (Vol. 9)

経済調査部  
佐藤 清一郎

## アセアンと中国の貿易構造

## [要約]

- アセアンと中国の経済関係は深まりを見せている。中国側の思惑は、アセアンの資源狙い、豊かさ増すアセアンへの商品販売狙い、安価な賃金を求めての企業進出等である。アセアン側の思惑は、中国からの技術移転や中国の高成長のメリットを自国に取り込むこと。
- アセアン各国側から中国への輸出割合を見ると、マレーシアが一番高く13%、その次が、インドネシア、タイ、フィリピンで11%、ベトナムが一番低くて9%である。一方で中国からの輸入割合を見ると、ベトナムが24%、インドネシアが18%、その次が、タイとマレーシアで13%、フィリピンが一番低く8%である。これらの数値からすると、中国との関係はフィリピンが一番少なそうである。
- 逆に、中国側からアセアン主要5ヶ国(インドネシア、マレーシア、フィリピン、タイ、ベトナム)全体への輸出割合を見ると7.1%、一方輸入割合は9.1%となっている。中国側から見たアセアン主要5ヶ国全体との貿易収支は赤字である。大幅貿易赤字となっているのは、対マレーシアやタイ、一方で、大幅貿易黒字となっているのは対ベトナムである。
- アセアン主要各国で、中国との貿易関係に違いが出るのは、経済発展段階の違いや資源の有無等が関係している。中国との取引において、タイ、マレーシア、フィリピンとは、機械や電子機器が多く取引されている一方で、インドネシアやベトナムとは、資源関係の取引が多くなっている。
- どのような形態であれ、アセアンと中国との貿易関係は深化している。貿易取引が、双方にメリットをもたらしている。この動きは、今後も更に深まる方向になると予想され、アセアンと中国は、双方ともに更に気になる存在となっていくであろう。

## アセアンと中国の貿易依存関係（2010年での姿）

アセアンと中国の経済取引関係は深まってきている。これに関し、中国側の思惑は、(1)アセアンの資源狙い、(2)アセアン市場での商品販売狙い、(3)安価な賃金を求めての企業進出等である。一方でアセアン側の思惑は、中国にある技術の自国への移転や中国の高成長のメリットを取り込み自国の成長にプラスとすることである。

アセアンと中国の貿易関係の深まり度合いがどの程度なのかを具体的につかむために、貿易関係をアセアン側と中国側からの双方から見てみよう。ここでは、2010年の貿易データを利用している。

### マレーシアと中国の取引関係が一番深い

アセアン各国側から中国への輸出割合を見ると、マレーシアが一番高く 13%、その次が、インドネシア、タイ、フィリピンで 11%、ベトナムが一番低くて 9% である。大まかに言えば、どこの国も、中国向けの輸出割合は 10%程度ということになる。この数値は、特別に大きいとは言えないが、やはり、中国の需要がアセアン主要国の経済に影響を与える大きさではある。

一方輸入を見ると、輸出とはかなり様子が異なる。一番高いのがベトナムで 24%、次がインドネシアで 18%。割合において、この 2 国が突出している。その次にくるのが、マレーシアとタイであるが、その割合は 13%程度である。一番低い割合なのがフィリピンで 8%となっている。タイ、マレーシア、フィリピンと比較してインドネシアやベトナムの輸入割合が高いのは、やはり、製造業の資本蓄積度合い等で自国での製品製造能力の違いが反映しているかもしれない。製品製造能力の高いマレーシアやタイでは中国製品が入り込む余地が小さい一方で、その能力が相対的に劣るインドネシアやベトナムでは、中国製品が入り込む余地が大きいと思われる。

このように見ると、アセアン主要 5 ヶ国の中でフィリピンが中国との関係は、一番少なそうである。

### 中国側から見ると、アセアン主要各国の貿易割合は小さい

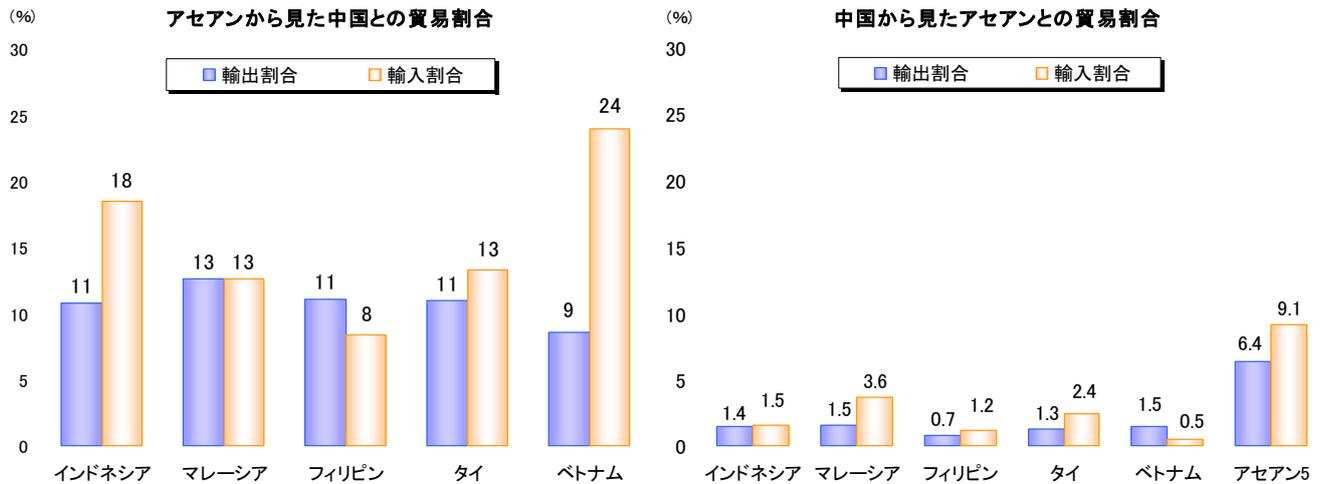
中国側からアセアンとの貿易関係を見ると、アセアン主要 5 ヶ国（インドネシア、マレーシア、フィリピン、タイ、ベトナム）全体では、輸出が 6.4%、輸入が 9.1% となっている。

輸出を国別で見ると、ベトナムとマレーシアが 1.5%、インドネシアが 1.4%、タイ 1.3%、フィリピン 0.7%となっている。この大きさからすると、当然とは言え、アセアン主要国の景気の動きは、中国の輸出にはあまり関係は無さそうである。

次に輸入を国別で見ると、一番大きいのがマレーシアで 3.6%、次がタイで 2.4%、その後に、インドネシア 1.5%、フィリピン 1.2%、ベトナム 0.5%と続く。この数値から判断すると、中国にとって、マレーシアやタイからの輸入は、それなりに重要ということになるであろう。

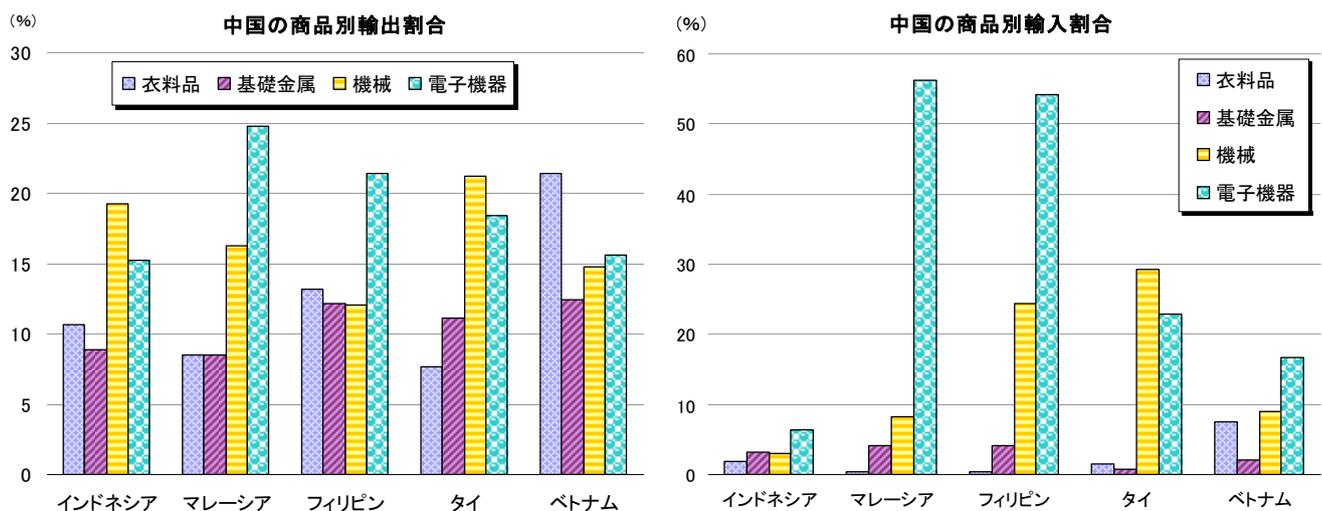
中国からアセアン主要 5 ヶ国への商品別輸出入の特徴を調べるために、衣料品、基礎金属、機械、電子機器をピックアップして、全体の中で、どの程度の割合となっているかを見ると、中国の輸出品では、ベトナム向けには衣料品がメインで機械や電子機器の比率は低いこと、一方で、マレーシア、タイ向けには機械や電子機器がメインで衣料品の比率は低いことがわかる。中国の輸入品では、マレーシアとフィリピンからの電子機器の比率が極めて高い。

図表 1 アセアンと中国の貿易関係 (2010 年)



出所：Haver Analytics より大和総研作成

図表 2 アセアンと中国の貿易関係 (商品別、2010 年)



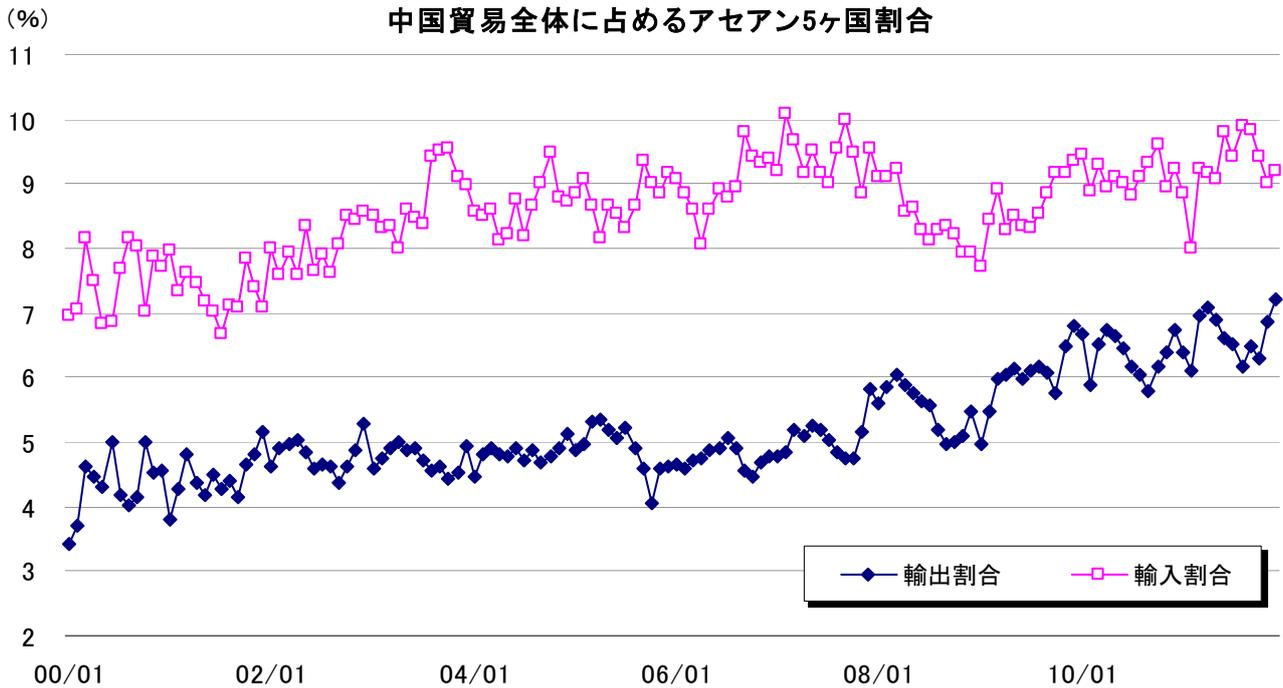
出所：Haver Analytics より大和総研作成

## アセアン主要 5 ヶ国全体と中国の貿易依存関係の推移

アセアンと中国の貿易関係を、比較的データが整っている中国側のデータを使って見てみよう。中国側から、2000 年以降最近までのアセアンとの輸出入割合の推移を見ると、2000 年と比較して、輸出、輸入とも、アセアン主要 5 ヶ国全体の割合が高まってきているのがわかる。

中国のアセアン主要 5 ヶ国全体への輸出割合は、2000 年頃は、全体の 4%程度だったが、2011 年では 7%程度まで高まってきている。中国のアセアン主要 5 ヶ国全体からの輸入割合は、2000 年頃は 7%程度であったが、2011 年では 9%程度にまで高まってきている。

図表 3 中国のアセアン5ヶ国との貿易割合



出所：Haver Analytics より大和総研作成

#### アセアンと中国の貿易関係は、時間の経過とともに深まる方向

このように、中国とアセアン主要5ヶ国の貿易関係は、時間の経過とともに深まってきている。割合は、まだそれ程大きいとは言えないが、だからと言って無視できる大きさではない。自由貿易協定締結の動きが活発となる中で、アセアンと中国の貿易関係は深まってきており、今後についても、この割合は、概ね増加方向が続いていくものと見られる。

### アセアン主要5ヶ国それぞれと中国の貿易関係

#### アセアン主要各国を見ると中国との関係はそれぞれ

中国とアセアン主要5ヶ国との貿易関係を、各国までおけると、いくつかの特徴が見られる。当然ではあるが、中国との付き合い方は、アセアン主要各国で一律ではない。特に、輸入割合を見ると、各国の特徴が顕著にあらわれる。

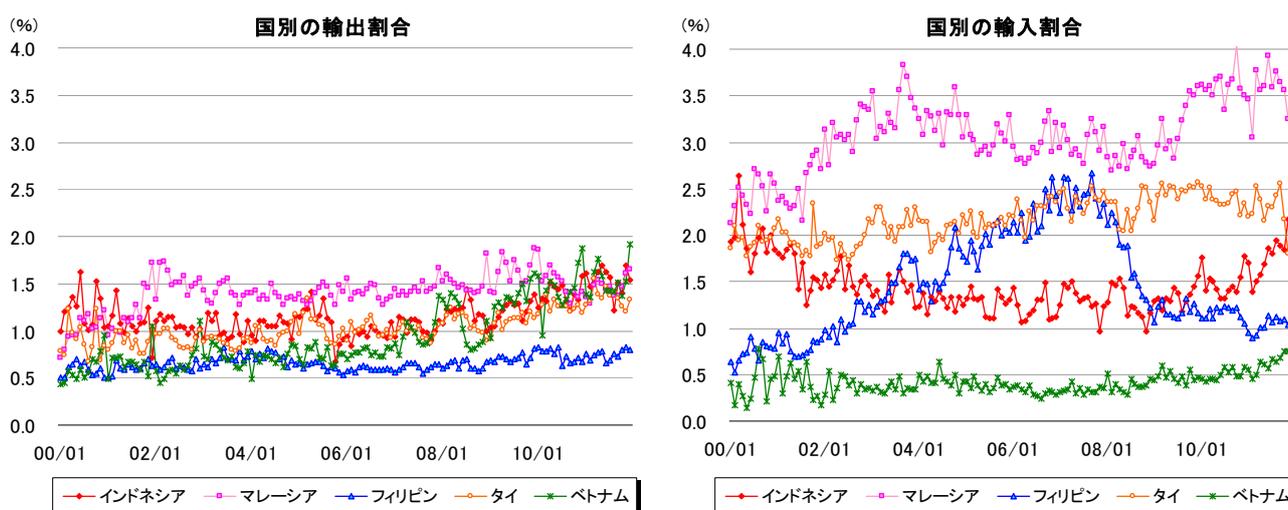
2000年以降のデータを使って、中国とアセアン主要各国との貿易関係を見てみよう。まず、中国のアセアン主要5ヶ国への輸出割合について。この割合は、2000年当時は、0.5~1.5%あたりであったが、その後、時間の経過とともに増加してフィリピンを除いて、約1.5%とほぼ同じようなゾーンに集中している。フィリピンは、これらの国より低く0.5~1.0%程度である。

#### ベトナムからの輸入にも力入れ始める中国

次に、中国のアセアン主要5ヶ国からの輸入割合について。これは、輸出と比べるとかなりばらつきが見られる。一番高いのはマレーシアである。割合を見ると、2000年当時2.5%程度だったが、最近では3%半ばまで増加してきている。次に高いのがタイである。タイは、2000年当時2%程度であったが、最近では2.5%程度まで増加している。インドネシアは、2000年当時、2.0%程度あったがその後

1.0%前半まで低下した。しかし、リーマンショック後は、再び増加方向となり、2.0%程度となっている。フィリピンは、2000年当時0.5%くらいだったが、その後2007年頃にかけて2.5%程度まで増加。しかしその後減少方向を辿り最近では1.0%程度となっている。ベトナムは、2000年以降、0.5%程度と低い割合での推移となっているが、最近では1%の方向に向かって割合を高めてきている。この動きからすると、中国は、マレーシア、タイとの取引を基本とするものの、ベトナムとの取引にも徐々に力を入れ始めているようである。

図表 4 中国のアセアン主要各国との貿易割合



出所：Haver Analytics より大和総研作成

## アセアン主要5ヶ国と中国の貿易収支

中国とアセアン5ヶ国との貿易収支を見ると、全体としては、中国はアセアン主要5ヶ国に対して貿易赤字となっている。そして赤字幅は、時間の経過とともに拡大方向にある。この点からすると、中国は、アセアンを、より安価な商品の調達先と見ている可能性が高く、まだ、中国製品をアセアン市場に普及させるといった段階までには至っていないようである。

なお、中国とアセアン主要5ヶ国との貿易収支が本格的に動き出し始めたのは、2000年前半からで、これは、2001年12月の中国WTO加盟や中国の高成長の動きが始まった時期と一致しており、比較的納得できるところである。

中国に対して一番黒字を稼いでいるのはマレーシア

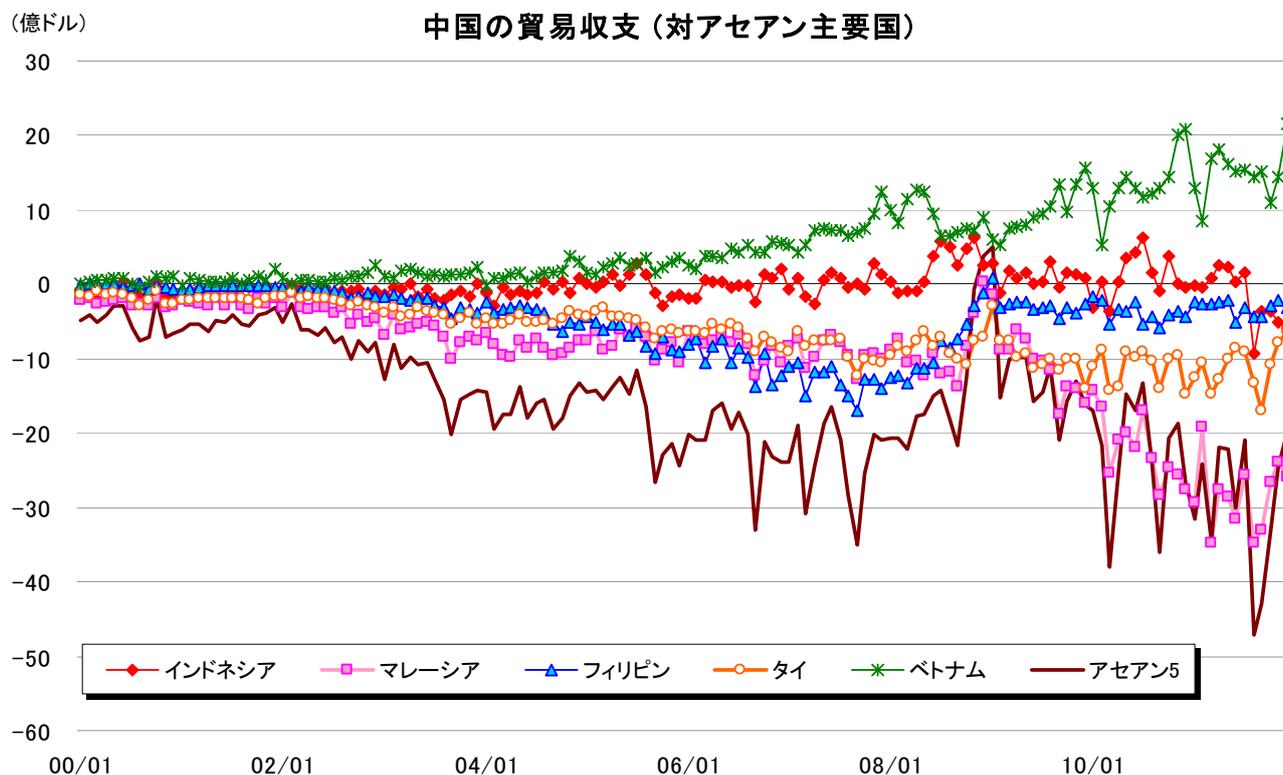
国別の動きを見ると、中国に対して一番黒字を稼いでいるのはマレーシアである。マレーシアの主な輸出品は、電子部品やパーム油などである。次に、中国向け黒字が大きいのがタイである。タイの主な輸出品は、輸送機械や電子機械、電子回路などである。マレーシア、タイに次いで中国向けに黒字を稼いでいるのはフィリピンである。フィリピンの主な輸出品は電子部品なので、それが中国に需要されていると見られる。

ベトナムは中国に対して大幅な貿易赤字

こうした黒字を稼いでいる国がある一方、ベトナムは、中国に対して大幅な貿易赤字、インドネシアもゼロ近辺での動きとなっている。ベトナムに関しては、

中国からの資本財などの輸入が増加する一方で、中国向けに輸出できる商品が少ないことがネックとなっている。ベトナムは、衣料品や靴などが主力の輸出品のため、中国と競合してしまう可能性が高いのである。

図表 5 中国のアセアン主要国との貿易収支



出所 : Haver Analytics より大和総研作成

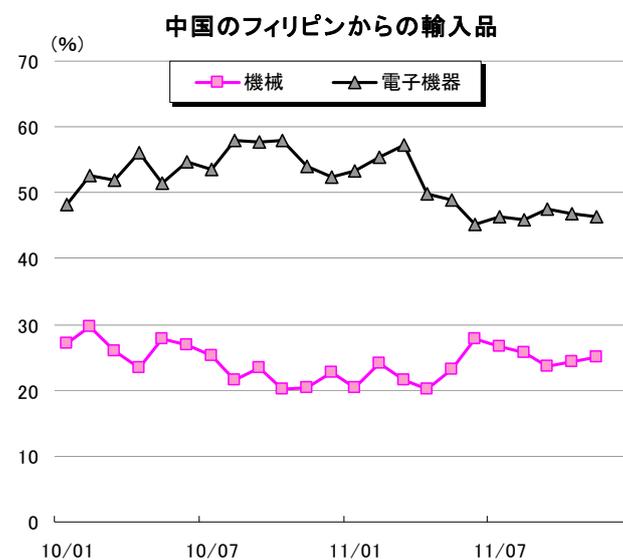
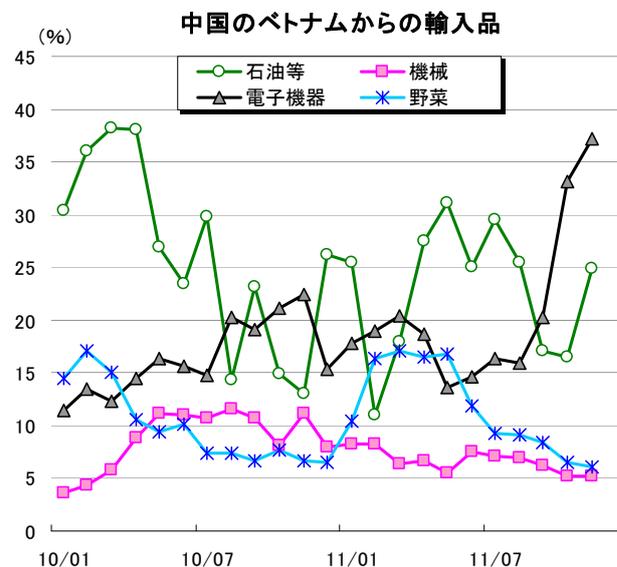
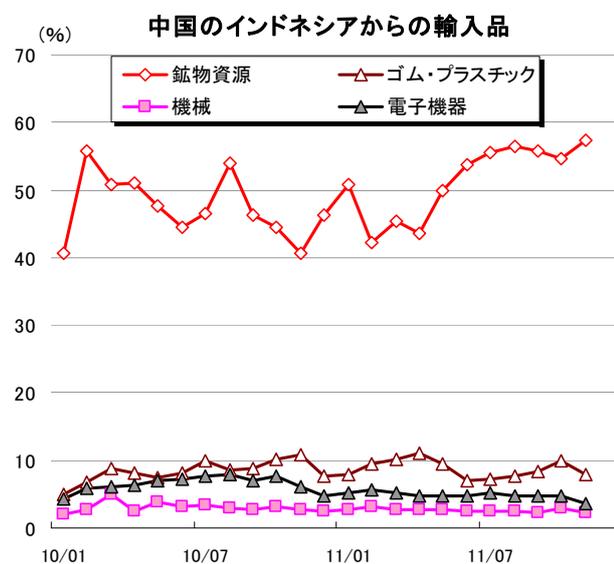
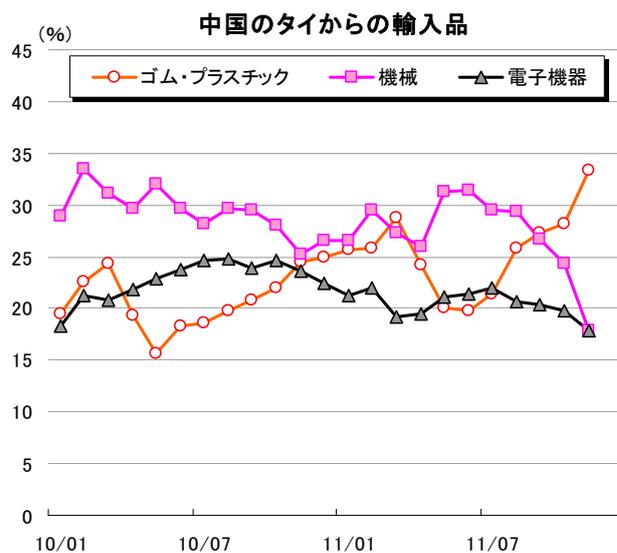
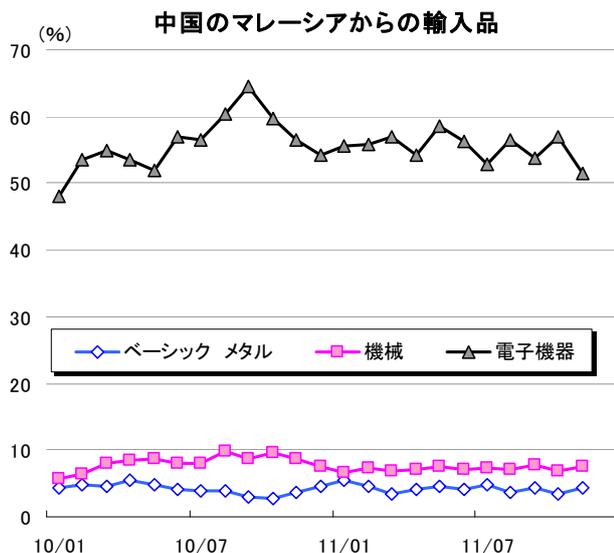
## タイの洪水に伴う興味深い動き

中国のアセアン主要 5 ヶ国との商品別輸入割合の推移を見ると、タイの洪水関連で興味深い動きが見られた。すなわち、昨年、タイで洪水が発生して工業団地が浸水して日本企業も大きなダメージを受け生産不能となった時期、中国の地域別輸入割合を見ると、電子機器に関して、輸入先をタイからベトナムにシフトした形跡が見られるのである。

中国は、タイの洪水時、タイからベトナムへ輸入先変更

昨年、タイで洪水が発生したタイミングあたりの中国とアセアン主要国との商品別貿易データを見ると、当然のごとく中国のタイからの電子機器輸入割合は大きく低下しているのだが、一方で、ベトナムからの電子機器輸入割合が急激に増加しているという現象が見られる。この動きはベトナムのみに見られる現象で、マレーシア、インドネシア、フィリピンには見られない。

図表 6 中国とアセアン主要5ヶ国からの商品別輸入割合



出所：Haver Analytics より大和総研作成

この意味するところは何か。本来、中国はベトナムから石油等の資源を輸入して電子機器や機械などの輸入割合は低い構造なのであるが、有事の際には、電子機器生産を代替できるインフラが出来ている可能性があるということである。

中国は、部品供給国として、タイのほかにベトナムも候補として持っているのだろう。今回のタイの洪水では、輸入先代替の動きは、インドネシアやフィリピンでは見られず、ベトナムだけであったことも興味深い現象である。

## まとめ

国と国との貿易は、お互いに何らかのメリットがあるから生じる。中国から見たアセアンとの貿易のメリットは以下のようである。

第一には、成長に必要な資源を確保することにあると思われる。ただ、中国のこのスタンスはアセアンに限ったことではなく、アフリカ、ロシア、ブラジル、豪州等、資源国と言われる国に対しては、すべて同じである。アセアンに対して、資源狙いの国としては、ベトナム、インドネシア、ミャンマー、ラオス等であろう。中国は資源立地地域に赴き、資源購入のみならず資源開発のサポートを積極的に行っている。

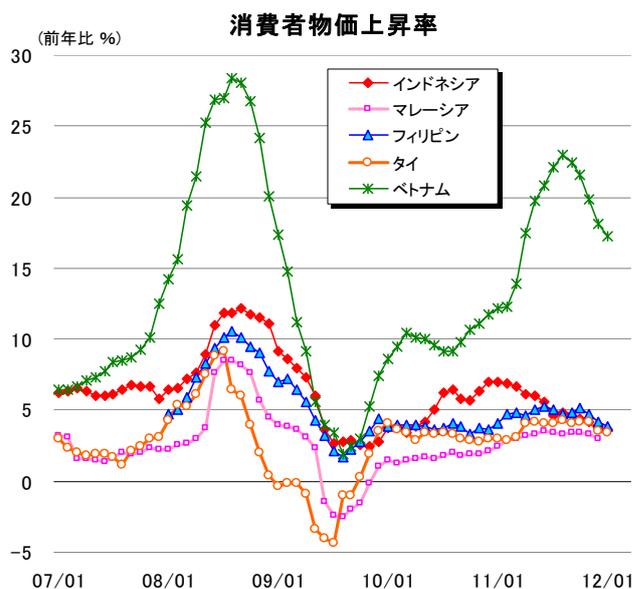
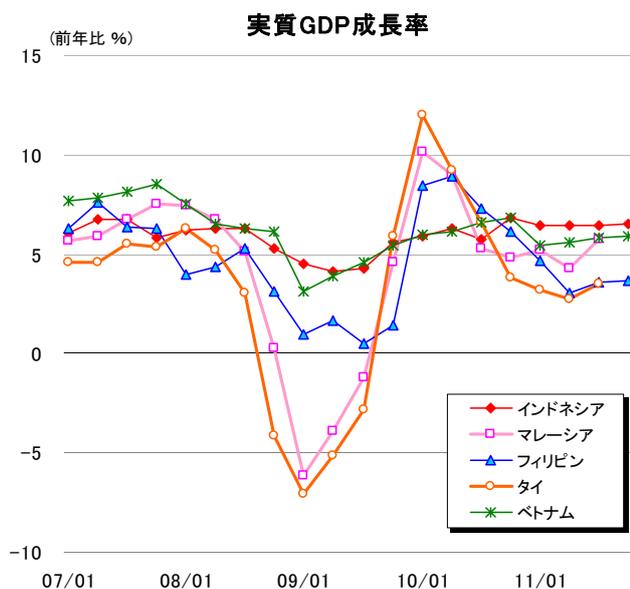
第二には、成長してきた中間層が増加してきているアセアン諸国に対する製品の売り込みである。この対象となる国は、タイ、マレーシア、インドネシア等である。中国は、自国の価格競争力を武器に、アセアンの中間層を取り込もうとしている。一方で、アセアンから見た、中国との貿易のメリットは、中国国内市場へのアセアン製品の売り込み(完成品、中間財)、資源の売り込み(石炭、パーム油など)であろう。

今後の中国とアセアンの貿易関係を考えると、中国はアセアンに対して貿易赤字であり続ける可能性が高い。何故なら、アセアンからの資源輸入や完成品輸入が拡大していく一方で、中国製品がアセアン市場でシェアを拡大していくのはそれ程容易ではないと予想されるからである。アセアン側の中国製品に対する警戒感や人件費の高さからくる中国製品の競争力の問題などが主な理由である。いずれにしても、中国とアセアンの貿易関係は、両者が経済拡大を続ける中で、今後とも深化する方向で進んでいくのは確かで、その展開が注目される。

アセアンと中国は、貿易依存関係が深まる方向で、経済成長を続けている。今後、貿易割合は高まる方向に動き、相互に更に経済動向が気になる存在となっていくであろう。

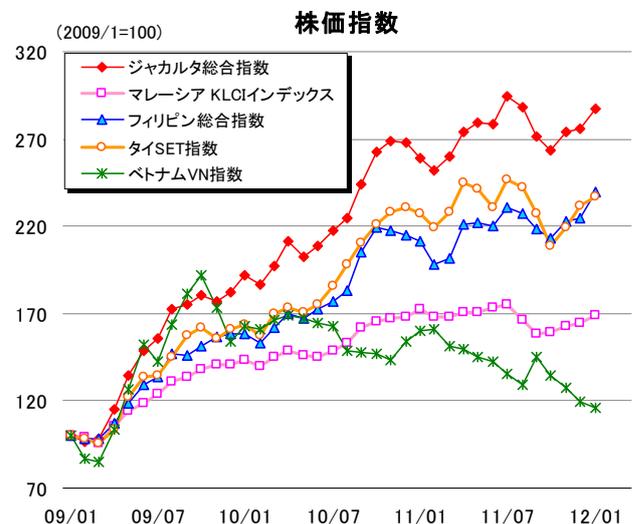
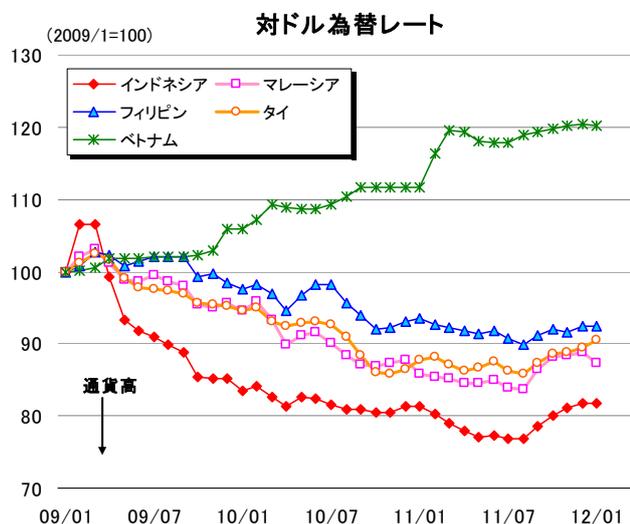
## 【チャート集】

チャート1 アセアン主要国の実質 GDP 成長率と消費者物価上昇率



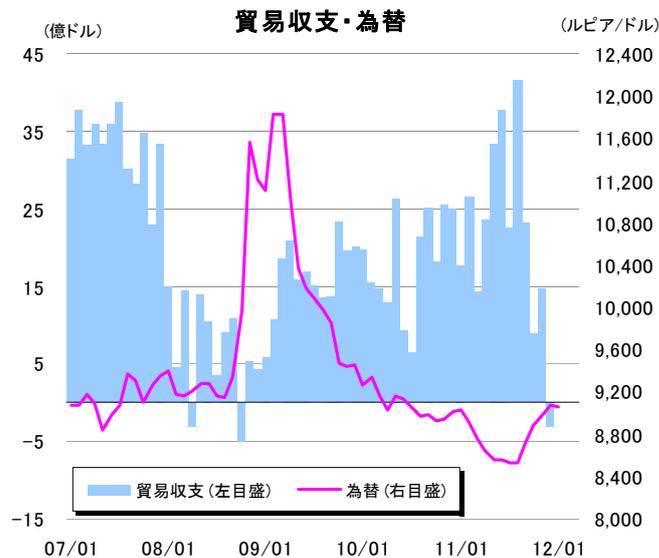
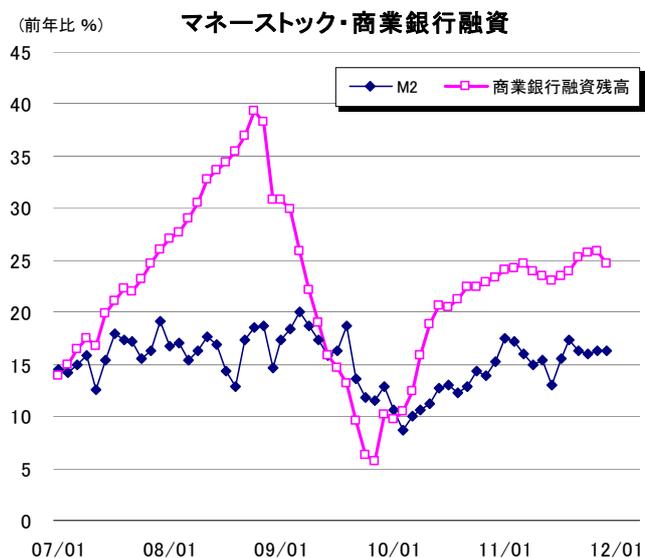
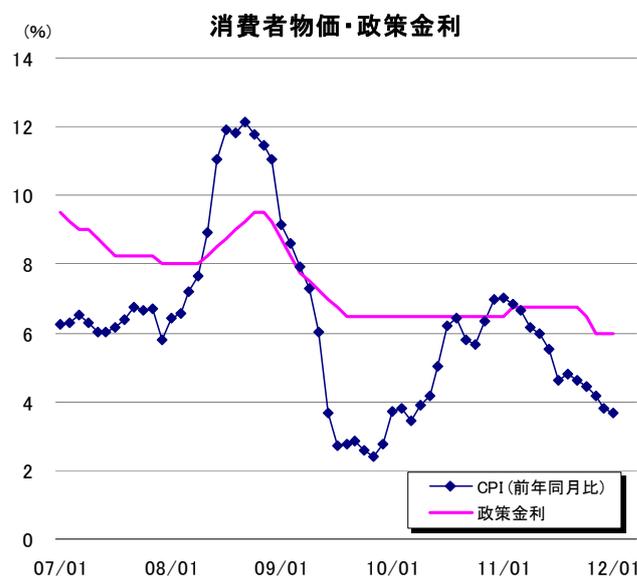
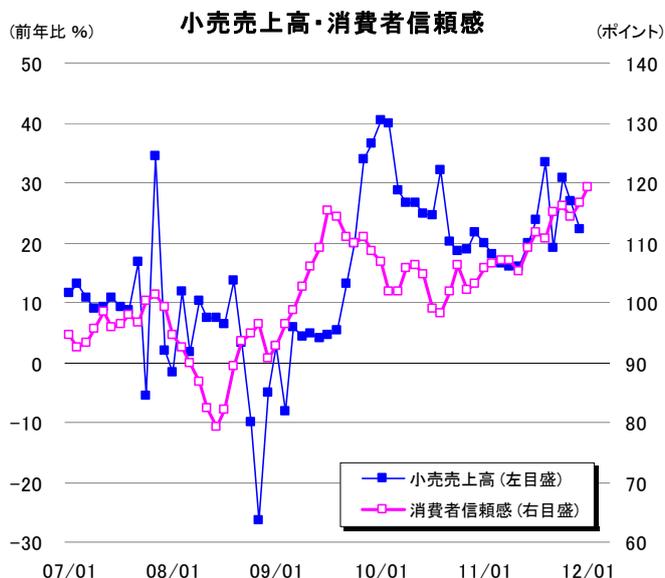
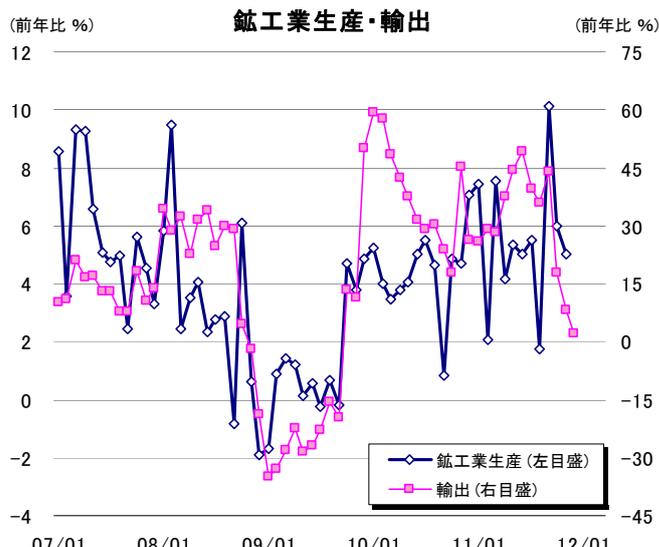
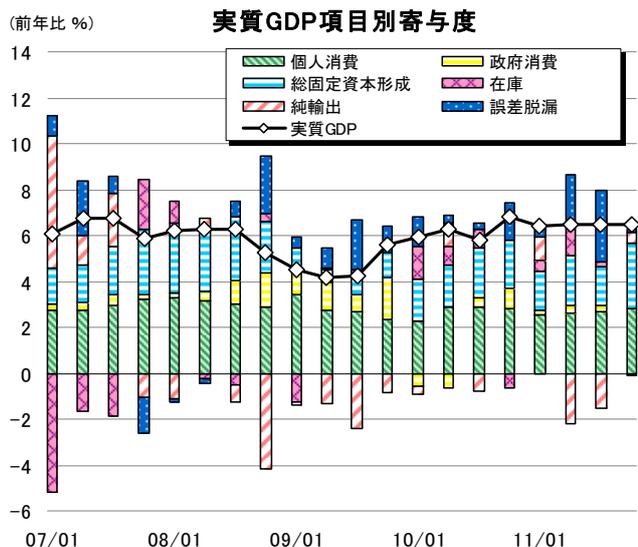
出所 : Haver Analytics より大和総研作成

チャート2 アセアン主要国の為替、株価指数



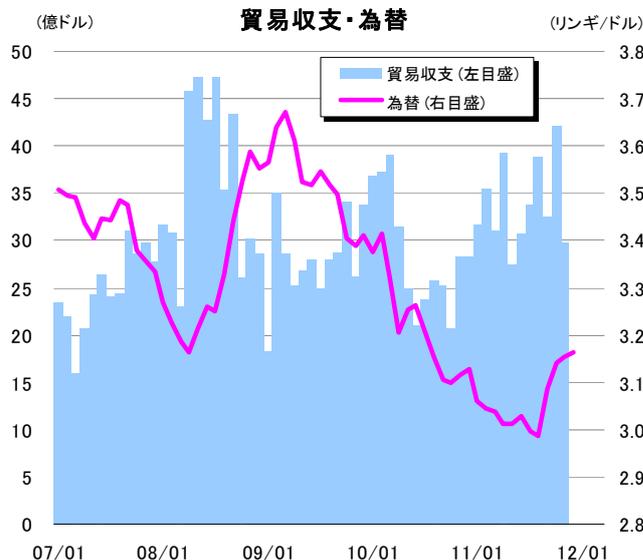
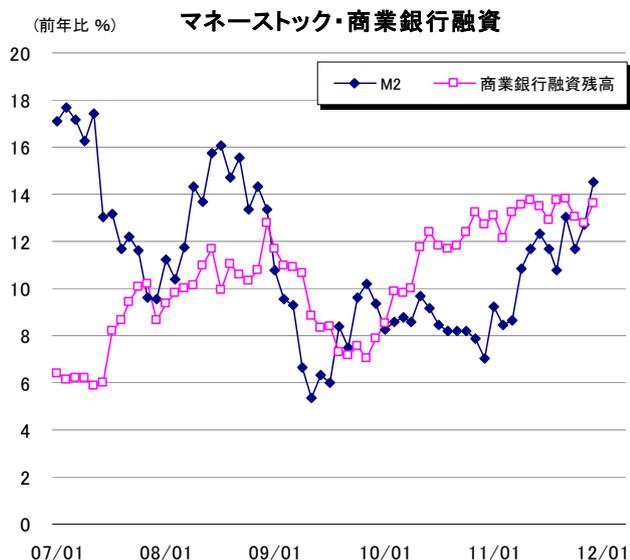
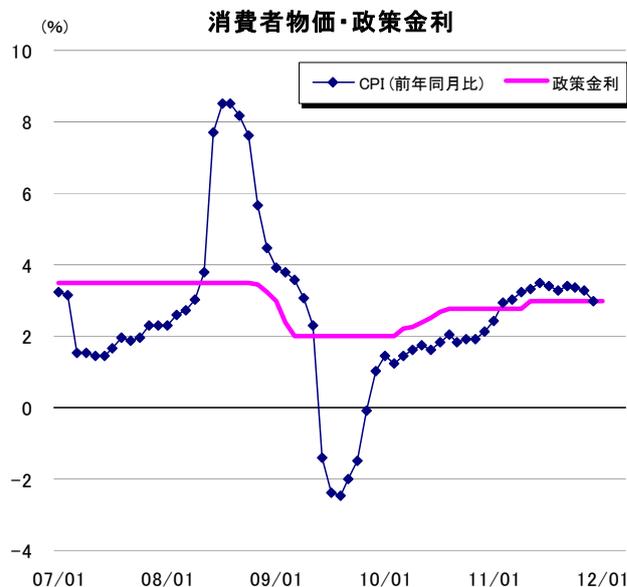
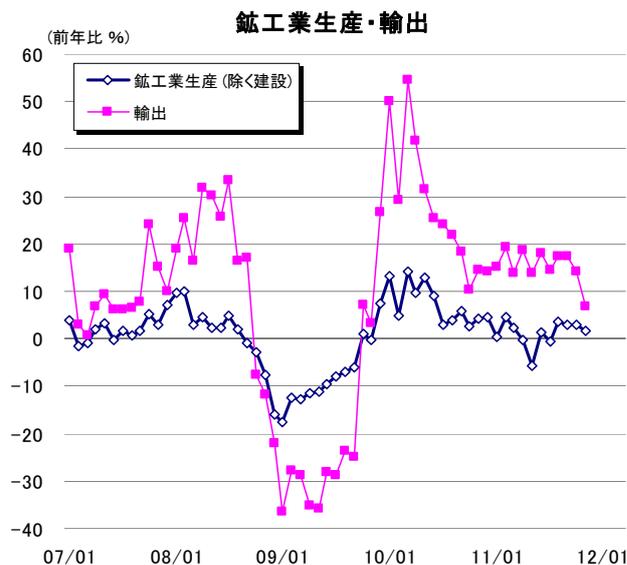
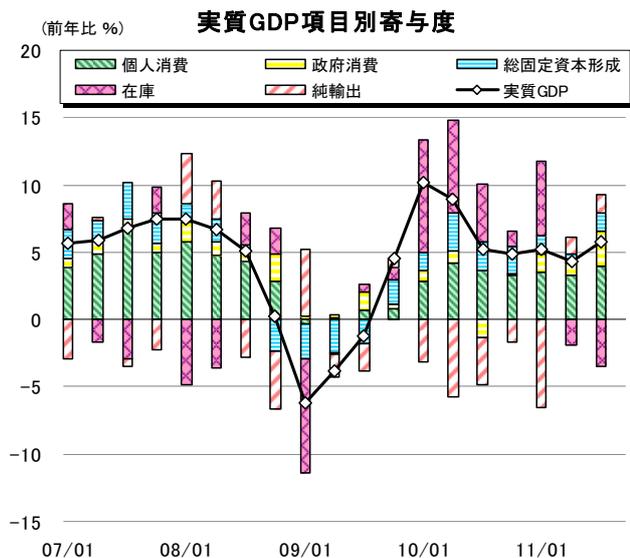
出所 : Haver Analytics より大和総研作成

チャート3 インドネシアの主要経済指標



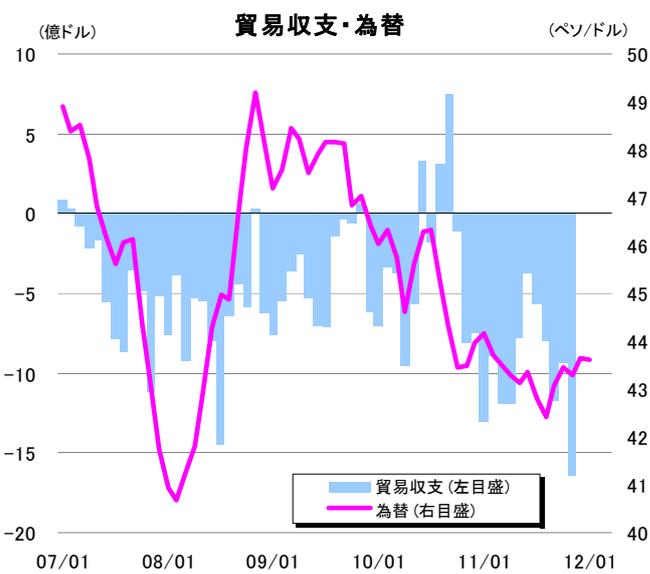
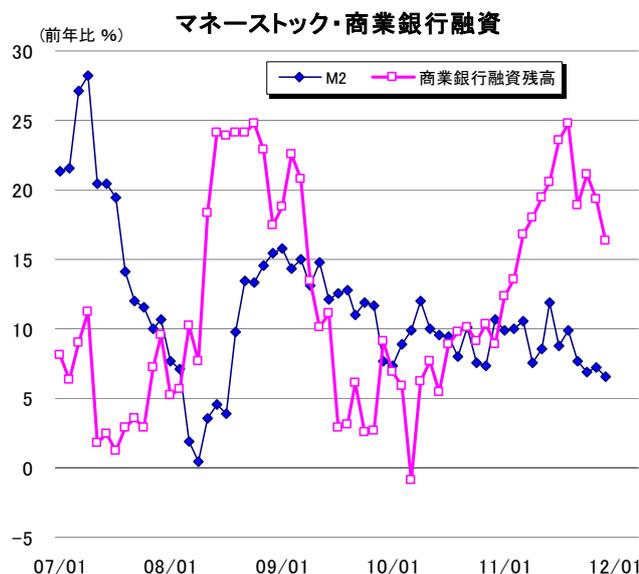
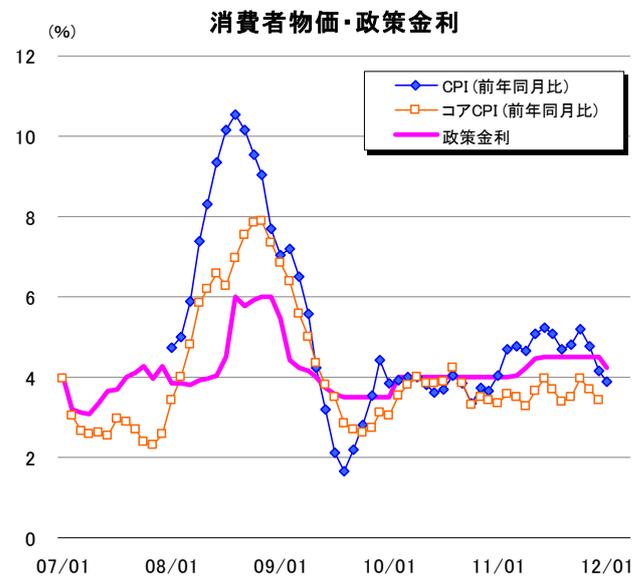
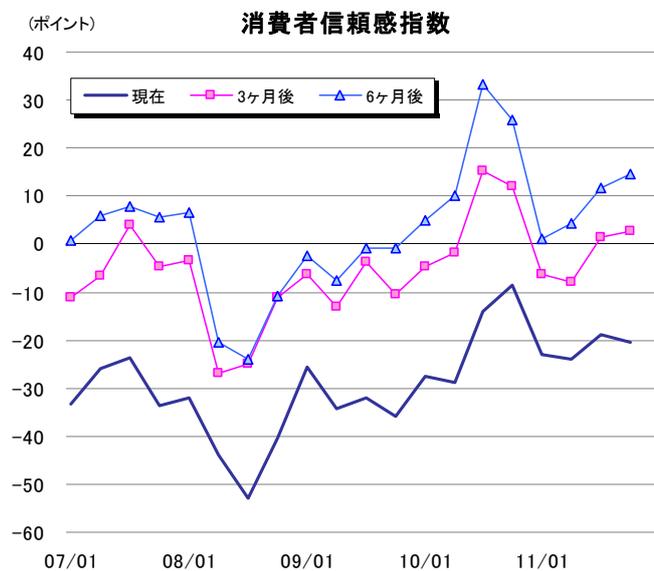
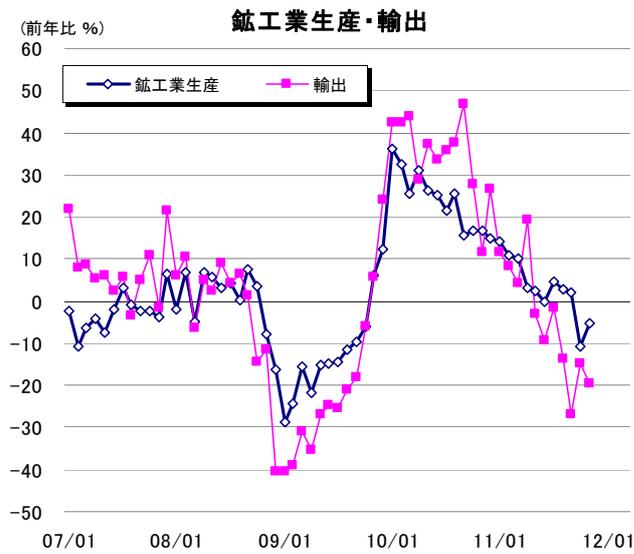
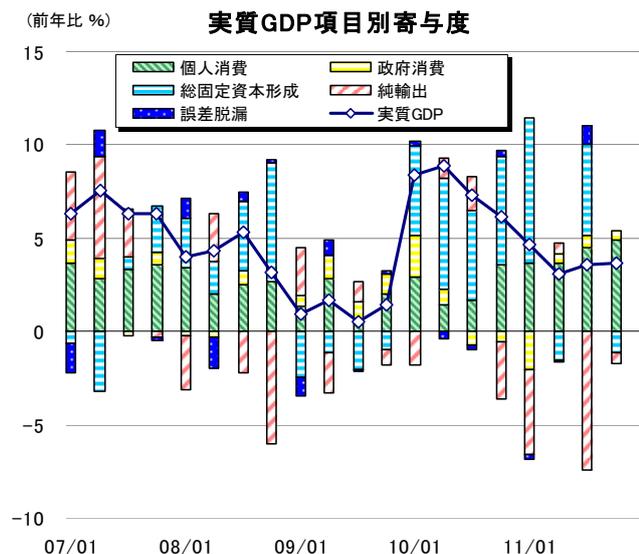
出所 : Haver Analytics より大和総研作成

チャート4 マレーシアの主要経済指標



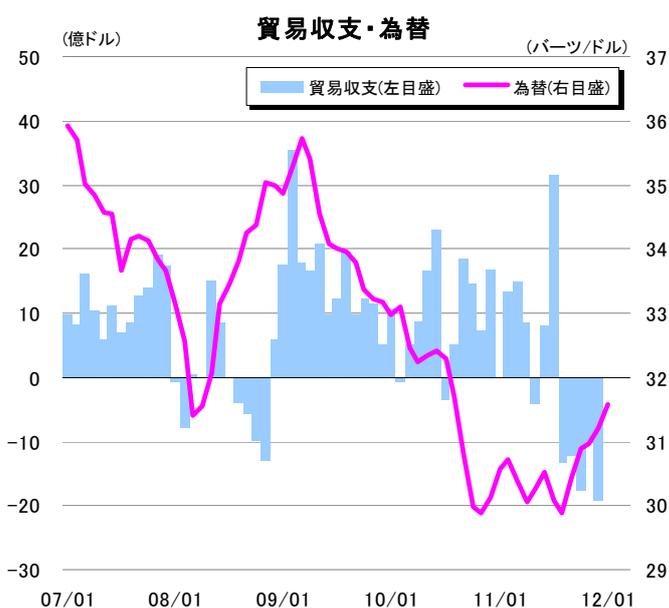
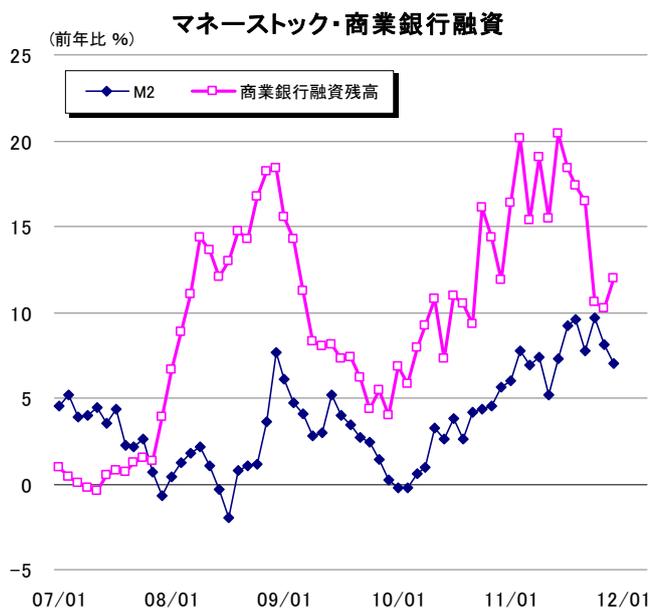
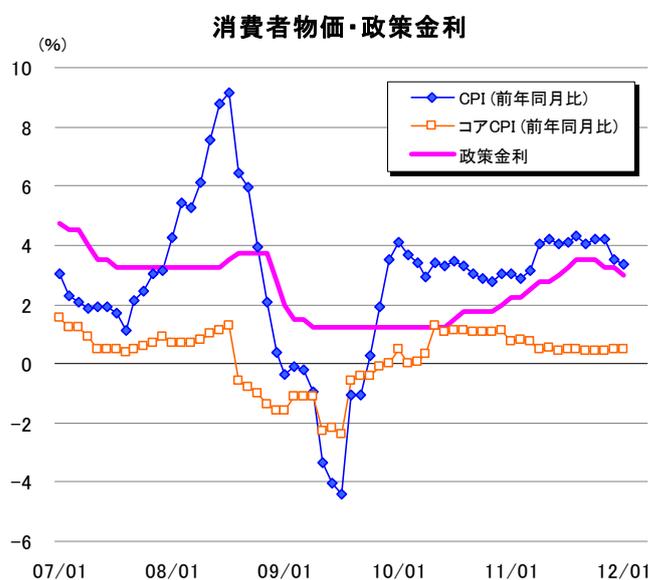
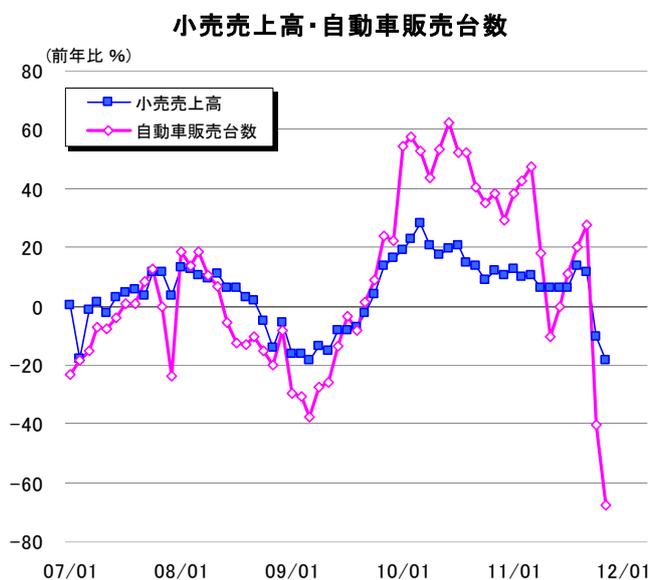
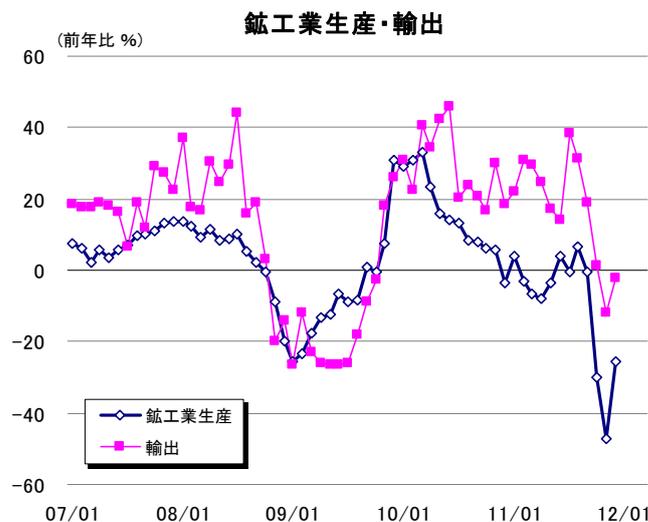
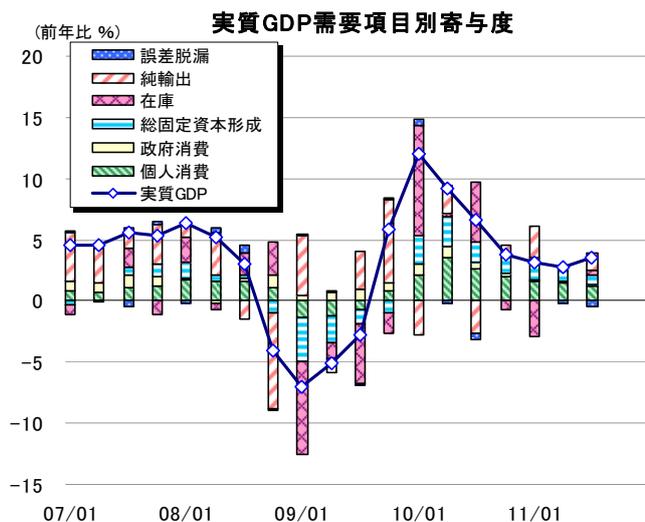
出所 : Haver Analytics より大和総研作成

## チャート5 フィリピンの主要経済指標



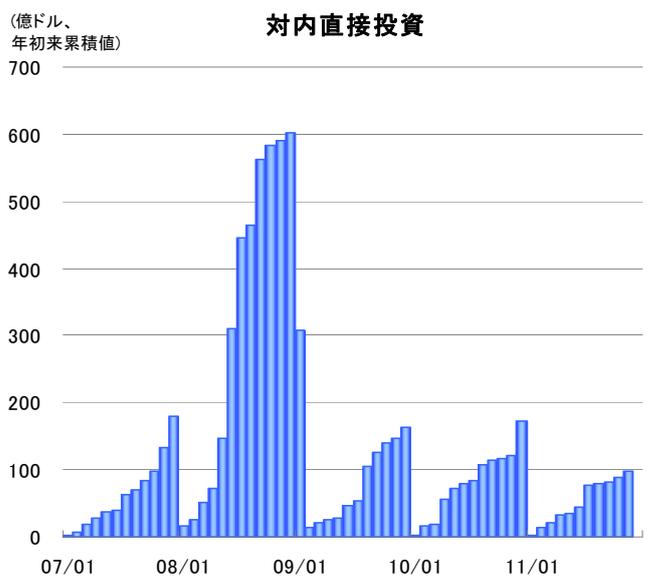
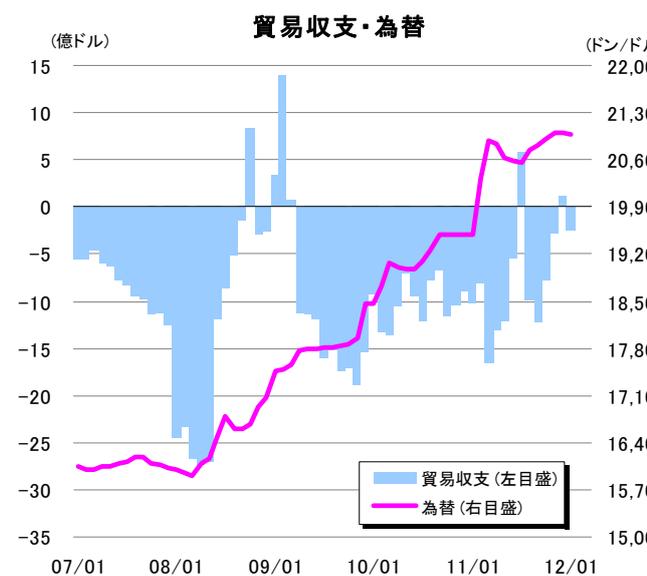
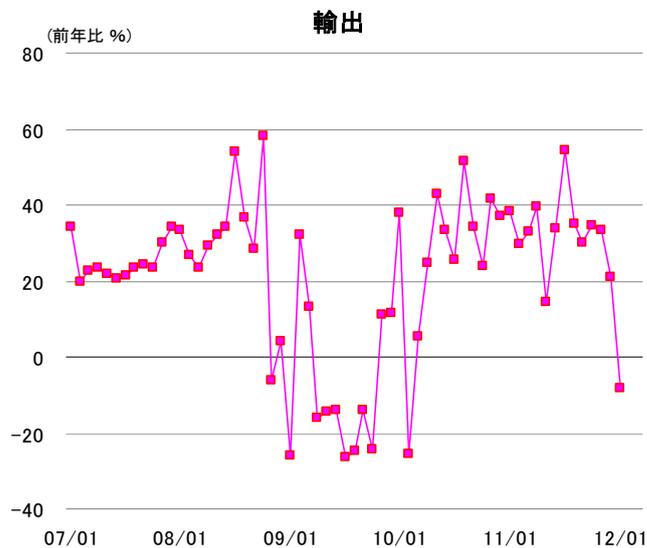
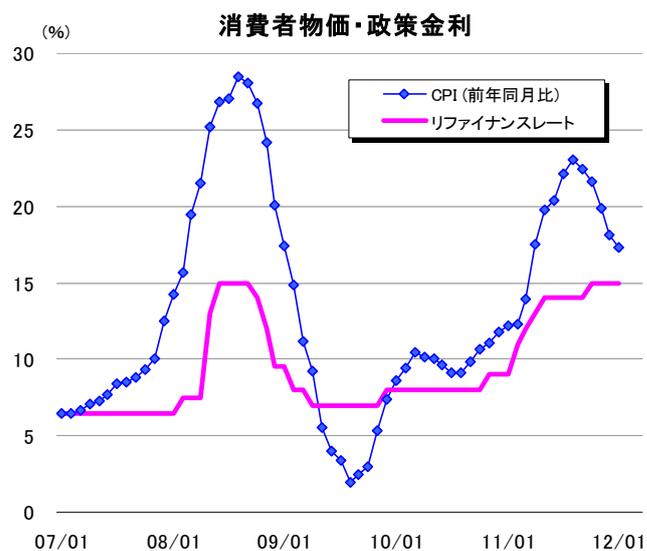
出所: Haver Analytics より大和総研作成

チャート6 タイの主要経済指標



出所 : Haver Analytics より大和総研作成

チャート7 ベトナムの主要経済指標



出所 : Haver Analytics より大和総研作成